



東邦大学 佐倉だより



東邦大学医療センター佐倉病院
発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811（代） FAX 043-462-8820（代）
URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診（病）連携 地域に貢献する病院
- 教職員のあり方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

vol. **54**
2022.1.1

- 1 Executive Message** 新年のご挨拶 病院長 吉田 友英
- 2 アピールしたい診療と研究**：あらゆる代謝内分泌疾患にチーム力で対応します 糖尿病・内分泌・代謝内科 准教授 齋木 厚人
- 3 新任紹介**：脳神経内科 講師 澤井 摂
- 4 当院での新型コロナワクチン接種について**：事務部総務課 石合 仁
- 5 第20回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して**：医療連携・患者支援センター 竹原 和宏
- 6 医療連携セミナー 次回開催予告**
- 7 2022年度の祝日における診療体制と休診日のお知らせ**

Topics News

Executive Message

新年のご挨拶



病院長

吉田 友英

Tomoe Yoshida

新年おめでとうございます。皆様におかれましては穏やかな新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東邦大学医療センター佐倉病院は、昨年9月2日に30周年を迎えました。ここまで発展を続けてこられたのは、地域の医療機関の皆様方のご支援、ご指導の賜物であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

落ち着いた新型コロナウイルス感染状況ではありますが、当院は地域災害拠点病院であり、千葉県の要請に従い第6波に備え病床の確保をしております。その一方で、地域医療支援病院として、高度急性期病院として、地域医療崩壊を防ぐ重要な使命を達成するために、11月にはHCU8床を開設し、1月14日にはICUを移設して新しく運用を開始いたします。さらに6月には手術室を2室増設し、計10室として運用を開始します。手術をお待たせしていた患

者さんを減らし、1人でも多くの患者さんを遅滞なく治療できるようにします。これらの効率的な運用には、地域医療機関との連携が非常に重要と考えており、地域の先生方との『顔の見える医療連携』、『対話する医療連携』を今後も育んでいこうと考えています。さらには4月から、今までの救急体制を新しくし、地域の医療機関からの救急要請のみならず、地域の方々に安心して過ごしていただける環境を提供する準備を進めています。

当院は基幹型臨床研修病院であり、総合型臨床研修を行っています。病床数あたりの指導医数が千葉県で最も多く、初期研修医は2016年より7年連続フルマッチしており、学生教育とともにこれまで以上に多職種の教職員皆で力をあわせて魅力ある教育体制を模索・継続していきたいと考えています。

新年にあたり教職員一同気持ちを新たに、地域のために安全で質の高い医療の提供を目指し、真摯な姿勢で医療に取り組んで参りますので何卒よろしくお願いいたします。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして良き年となりますように心から祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

アピールしたい

診療と研究

あらゆる代謝内分泌疾患にチーム力で対応します

糖尿病・内分泌・代謝内科 准教授 齋木厚人 さいき あつひと

近隣の先生方にはいつもお世話になっております。当センターは県内屈指の糖尿病診療実績を誇る一方で、糖尿病以外の代謝内分泌疾患にも対応できるよう日々研鑽しております。今回、私たちの診療や研究をアピールする機会を得ることができ、今まで以上に私たちを有効活用していただけるようになれば幸いです。

当センター最大の特徴は、看護師、管理栄養士、メンタルヘルスが一体となった糖尿病、肥満症治療システムです。これは前々任の白井厚治教授の強力なリーダーシップと、当時の熱心なスタッフにより築き上げられました。個別指導にはグラフ化データファイル「ヘルスケアファイル」を用い、病棟看護師を外来に派遣する「ユニット化」をいち早く採用、肥満症治療ではパーソナリティ診断や、多職種参加型の「オベシティカンファレンス」が導入されました。さらには Metabolic Syndrome の新規マーカーの確立、低糖質食やフォーミュラ食を用いた肥満糖尿病治療、各種抗酸化療法への挑戦、血管機能検査 CAVI の開発など、未来に向けて画期的な診療や研究が行われてきました。前任の龍野一郎教授におきましては、肥満症治療学会の理事長として、厚労省龍野班の代表研究者として、最近では減量・代謝改善手術に関する3学会合同ステートメントを統括する立場として、佐倉病院が誇る高度肥満症治療のさらなる発展に貢献されました。現在、100kg や 200kg といった高度肥満やその合併症で困られている患者さんに対して、従来からの内科治療のほか、保険診療のスリーブ状胃切除術、先進医療のスリーブバイパス術、自費診療の内視鏡的胃内バルーン留置術、最新の薬物療法など、多彩な選択肢から患者さんの病態や状況に適した治療法を提供できる体制となっています。外科やメンタルヘルス、合併症に応じた専門科との連携も積極的に行っています。平日の午前・午後に初診の事前診療予約制を設けておりますので、ご紹介の際はぜひコンシェルジュにご相談ください。



龍野一郎前教授は、惜しまれながら千葉県立保健医療大学の学長にご栄転されました(医局員から温かい寄せ書き入りのスクラブをお贈りしました)。

当センターは、総合的な代謝内分泌診療施設としての一面も持ち合わせています。1型・2型糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症、高尿酸血症などの代謝診療はもちろん、前任の龍野教授の指導のもと、間脳下垂体、甲状腺、副腎を中心とした内分泌診療も本格化し、甲状腺超音波下穿刺吸引細胞診や副腎静脈サンプリングといった特殊診療にも力を入れています。

昨年4月からは、齋木が診療責任者を引き継いでおります。総合的な内分泌代謝センターの機能は維持しつつ、高度肥満症治療ではさらなる高みを目指し、行動心理学的アプローチや今後注目される薬物治療にも力を入れていきます。研究面では血管の不老長寿をキーワードに、動脈硬化を起こしにくい「良性肥満」の提言、酸化ストレスや動脈硬化を抑制する特殊なコリンエステラーゼの同定、肥満心筋症の機序解明など、若い医師たちが日常業務に追われながらもオリジナリティのある重要な研究プロジェクトを動かしています。学術活動も含めて、先生方と顔の見える連携ができるように努めますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ヘルスケアファイル (東邦大学佐倉病院方式)

減量の機序	摂取量制限	摂取量制限+消化吸収制限	
体重減少効果	20~35%	25~40%	
糖尿病改善効果	良い	非常に良い	
問題点	リバウンドの可能性	術後の胃腸発見が困難	外科手技が高度
費用	保険診療	自費診療	先進医療

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 保険診療の適応基準 (の一部)

- 6ヶ月以上の内科的治療が行われているにもかかわらず、BMI 35 kg/m²以上であること。
- 糖尿病、高血圧、脂質異常症のうち1つ以上を有していること。

佐倉病院で施行されているおもな減量・代謝改善手術

新任紹介



脳神経内科 講師

澤井 摂 さわい せつ

2021年10月に内科学講座脳神経内科に赴任いたしました。私は2002年千葉大学医学部を卒業後、千葉大学脳神経内科に入局しました。特に遺伝の関わる神経疾患の診療を担当し、遺伝子解析による診断法の開発にも携わりました。

脳神経内科は、脳卒中、てんかん、認知症、パーキンソン病などを診療します。これらの疾患は新しい治療法が次々と開発され、発展の目覚ましい領域です。そのため、的確な診断と適切な治療法選択が重要となります。

高齢化社会が進行する中で、特に認知症やパーキンソン病の診療はニーズが高まっています。認知症には、脳血管障害、脳の変性による疾患（アルツハイマー病、

レビー小体型認知症など）、内科的・外科的疾患（甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏症、脳炎、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍など）があり、これらを鑑別する必要があります。当科ではMRI、脳血流SPECTなどの画像検査、認知機能検査、血液・髄液検査、遺伝子検査などを組み合わせて鑑別診断を行います。また、パーキンソン病の診療では、診断に必要なMIBG心筋シンチグラフィやドパミントランスポーターSPECTが当院で可能です。進行期には当院の脳神経外科で手術療法（脳深部刺激療法）を受けることも可能で、当院でのパーキンソン病診療は、幅広い治療法から最適な治療を選択することができます。

これまでの経験を生かして地域の患者さんの診療に邁進して参ります。よろしくお願い申し上げます。

当院での新型コロナワクチン接種について

事務部総務課 石合 仁

当院では、佐倉市民へのワクチン接種を円滑に行うため佐倉市のニーズをお伺いし、6月までは医療従事者・消防職員、7月からは小中教職員・市役所職員・中高生年代、9月は妊婦およびパートナーを中心に接種を行いました。

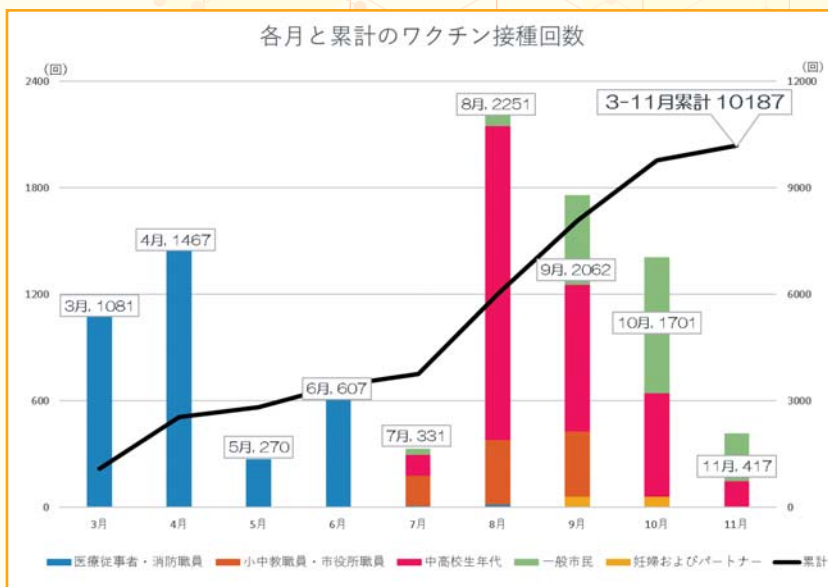
特に、佐倉市から「中高生年代の希望者を夏休み期間中に接種させたい」との強い要望があり予約枠を拡大し1日に350回接種できるよう体制強化を行いました。

中高生年代の需要も落ち着いた9月中旬より一般市民への接種も開始しました。

佐倉市民の2回目接種率が80%を超えたのが11月1日でした。これは全国平均よりも早いペースであり、佐倉市、市内の医療機関の協力体制が万全だったことが要因と言えます。

また、東邦大学習志野キャンパスで実施された職域接種にも当院の医師を派遣するなど社会貢献に務めました。

ワクチンの3回目接種や5～11歳への接種が計画されておりますが、これからも新型コロナウイルス感染症が1日も早く収束するよう市内唯一の地域医療支援病院としての責務を全うしていきます。



第20回 医療連携セミナーを開催して



医療連携・患者支援センター 竹原 和宏



整形外科 准教授 中島 新



整形外科 医師 山田 学



整形外科 医師 山本景一郎



会場の様子

2021年12月8日(水)に第20回医療連携セミナーを開催し、院内外から56名のご参加をいただきました。会場とWebどちらでもご参加可能なハイブリッド形式で開催し、多くの方に会場にお越しいただきました。一般演題では「関節リウマチに伴う両膝破壊に対して両側TKAを施行した1例」と題して整形外科 山田 学が、続いて「手術加療を要した関節リウマチ前足部変形」と題して整形外科 山本景一郎が講演しました。特別講演では「進化する関節リウマチの薬物治療と手術」と題し、整形外科 准教授 中島 新が講演しました。職種を超えた多くの方々からご質問をいただき、有意義な会となりましたことに感謝申し上げます。

皆様との連携のさらなる発展のために、2022年度も医療連携セミナーを企画して参ります。より多くの方々にご参加いただき、地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」を目指していきます。

今後ともご参加のほどよろしくお願い致します。

医療連携セミナー開催のお知らせ

第21回 医療連携セミナー

- 開催日時：2022年6月8日(水) 19:00~20:15
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- 講演内容：不眠症をテーマに企画しております。

※お申し込み等の詳細は4月の広報誌に同封してお届け致します。

2021年度 診療体制変更(祝日・土曜)について

以下の祝日は平日診療体制、土曜日は休診とさせていただきます。

祝 日
2022年 1月10日(月)
2022年 3月21日(月)

平日診療体制

※平日同様に外来・手術等をしております。

土 曜
2022年 1月29日(土)
2022年 3月 5日(土)

休 診

※救急のご依頼はお問い合わせください。